

那珂川市 日常生活圏域ニーズ調査結果（概要）

1 調査の目的

本調査は、那珂川市における高齢者の生活実態を把握し、第 10 期介護保険事業計画の検討に活用する基礎資料として実施した。

2 調査概要

対象

65 歳以上の高齢者（要介護認定を受けていない方）

調査対象

2,000 人

回答者数

1,501 人

回答率

75.1%（前回調査 71.2% → +3.9pt）

調査方法

郵送配布・郵送または Web 回答

3 市全体の状況

調査結果から、主観的健康観・幸福感ともに比較的高く、生活状況は概ね良好。

指標	結果
主観的健康観（健康と感じている）	70.6%
主観的幸福感（幸福感が高い）	59.2%
外出頻度	多くの高齢者が定期的に外出

4 前回調査との比較

指標	R4	R7	傾向
運動器機能低下	25.2%	25.3%	横ばい
閉じこもり	23.9%	21.0%	改善
転倒リスク	35.7%	37.5%	増加
主観的健康観	69.4%	70.6%	微増
主観的幸福感	58.6%	59.2%	微増

- ・ 閉じこもりは改善
- ・ 健康観・幸福感は良好
- ・ 運動機能は横ばい
- ・ 転倒リスクは増加

5 圏域ごとの特徴

圏域別の主な特徴

圏域	高齢化率	主なリスク	特徴
南畑	38.0%	運動器 39.7% 転倒 39.6%	高齢化・身体機能リスク高
岩戸 A	37.3%	閉じこもり 27.9%	外出機会の確保
岩戸 B	24.7%	うつ 43.1%	人口最大
安徳 A	30.7%	口腔 19.6%	概ね平均
安徳 B	19.4%	多くのリスク低	自立度高

(市平均)

運動器機能低下	25.3%
閉じこもり	21.0%
転倒リスク	37.5%

6 調査から見えるポイント

- ・市全体として高齢者の健康状態は概ね良好
- ・閉じこもりは改善傾向
- ・転倒リスクは増加
- ・圏域ごとに課題が異なる

7 今後の政策検討の方向

第 10 期介護保険事業計画に向けて以下の内容等を検討していく。

- ・圏域特性を踏まえた介護予防施策
- ・転倒予防対策の強化
- ・閉じこもり予防の推進

那珂川市 在宅介護実態調査結果（概要）

1 調査の目的

在宅で介護を受けている高齢者の生活状況や家族介護の実態を把握し、第 10 期那珂川市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の基礎資料とする。

2 調査概要

対象

65 歳以上の高齢者（在宅で介護を受けている方）

調査対象

500 人

回答者数

342 人

回答率

68.4%（前回調査 53.8% → +14.6pt）

調査方法

郵送配布・郵送または Web 回答

3 回答者の特徴

（年齢） 85 歳以上 52.3%

（要介護度）要介護 1 38.0% 要介護 2 30.4% 要介護 3 以上 31.5%

4 在宅介護の状況

調査結果から、那珂川市では家族介護を中心に在宅生活が継続されている状況がみられる。

主な結果

（家族介護） ほぼ毎日 50.6%

（主な介護者） 子 53.7% 配偶者 32.6%

5 前回調査との比較

主要指標の変化

項目	R4	R7
施設入所検討	24.2%（内申込済 7.8%）	32.2%（内申込済 16.1%）
介護離職	13.5%	15.3%
在宅継続支援ニーズ	移送サービス 21.2%など	移送サービス 26.6%など

6 在宅生活継続の課題

(施設入所の検討)

32.2% ※要介護3以上 51.8%

(在宅継続に必要な支援)

移送サービス（介護・福祉タクシー等） 26.6%

外出同行 23.4%

配食 21.6%

見守り 19.6%

7 介護者の負担

(介護離職)

15.3%

(主介護者年齢)

50代 28.9% 60代 31.4% 70代 23.6%

8 介護者の不安

認知症対応 40.9%

外出の付き添い・送迎 36.0%

夜間排泄 32.2%

9 調査から見えるポイント

- ・ 家族介護を中心に在宅生活が継続されている
- ・ 認知症対応や排泄介助が介護者の大きな負担
- ・ 外出支援など生活支援サービスのニーズが高い
- ・ 介護離職の課題が存在

10 今後の政策検討の方向

第10期介護保険事業計画に向けて以下の内容等を検討していく。

- ・ 在宅介護を支える生活支援サービスの整備
- ・ 仕事と介護の両立支援